

# Catalogue

エッセンスがひと目でわかる  
「実務」のカタログ

## 「会社の数字」の 基本がわかる88項目！

会計とは／財務会計と管理会計  
貸借対照表／損益計算書  
キャッシュフロー計算書  
連結会計／時価会計／税効果会計  
IFRS導入の最新動向  
財務分析の基本／企業の評価手法  
経営プロセスと管理会計  
損益分岐点分析／資本コスト  
etc.

第3版

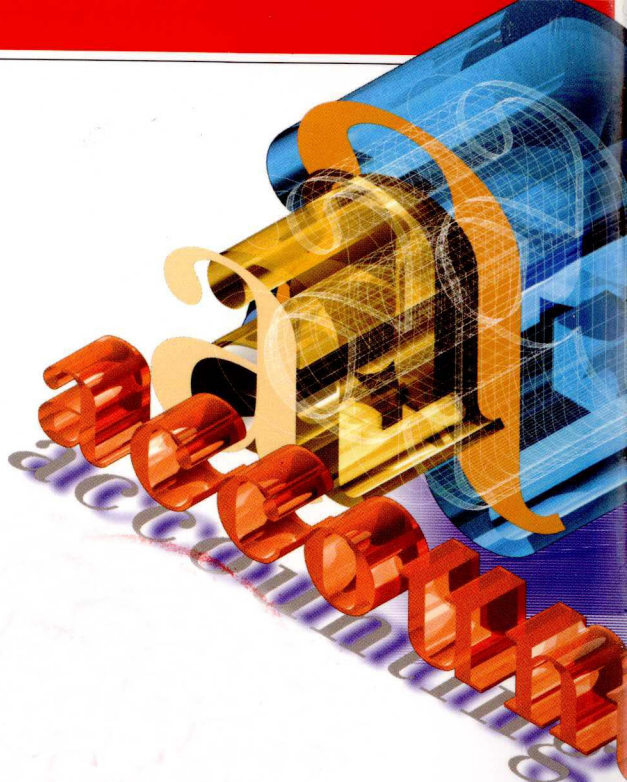
図解

# 会計のしくみ

公認会計士・税理士

波光史成

東洋経済新報社



**Catalogue**

エッセンスがひと目でわかる  
「実務」のカタログ

第3版

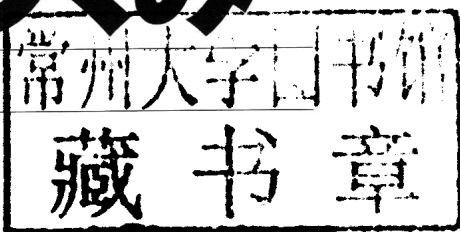
**図解**

# 会計のしくみ

公認会計士・税理士

**波光史成**

東洋経済新報社



## 著者紹介

1969年生まれ、慶応義塾大学経済学部卒業後、センチュリー監査法人（現、新日本有限責任監査法人）、株式会社小宮コンサルタンツを経て独立。現在は、波光公認会計士・税理士事務所代表、及び、株式会社青山トラスト会計社の代表パートナーを務め、主に、オーナー系企業などの財務・税務・会計アドバイザーとして、資本政策や税務対策などの実務に取り組む。公認会計士・税理士。  
事務所所在地 東京都港区北青山1-2-3 青山ビルヂング13階

## 図解 会計のしくみ 第3版

2011年2月17日 発行

著者 は こう ふみ なり 波光 史成  
発行者 柴生田晴四

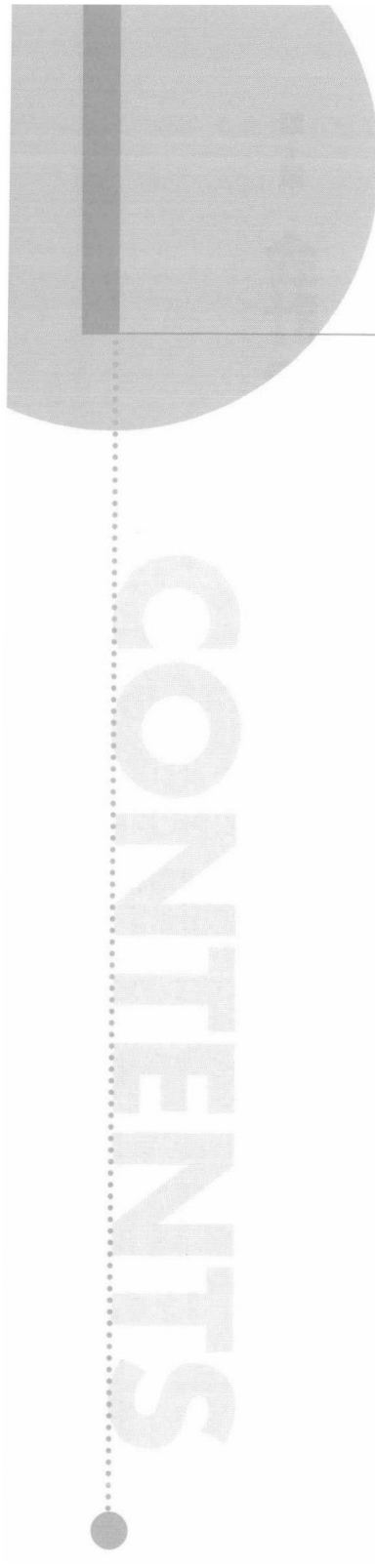
〒103-8345  
発行所 東京都中央区日本橋本石町1-2-1 東洋経済新報社  
電話 東洋経済コールセンター03(5605)7021

印刷・製本 東洋経済印刷

本書の全部または一部の複写・複製・転載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。これらの許諾については小社までご照会ください。

© 2011 〈検印省略〉 落丁・乱丁本はお取替えいたします。

Printed in Japan ISBN 978-4-492-09292-7 <http://www.toyokeizai.net/>



# 図解 会計のしくみ

〈第3版〉

CONTENTS

## 第1章

## 会計って何だろう

chapter 1

|    |                       |    |
|----|-----------------------|----|
| 01 | 本書のしくみ〈本書を読む前に〉       | 12 |
| 02 | ビジネスの共通言語〈そもそも会計とは〉   | 14 |
| 03 | だれのための会計か〈財務会計と管理会計〉  | 16 |
| 04 | ルールに基づく財務会計〈資本主義の根幹〉  | 18 |
| 05 | さまざまな財務会計制度〈会社法と金商法〉  | 20 |
| 06 | 意思決定のための管理会計〈経営者の参謀役〉 | 22 |
|    | コラム1 会計とコミュニケーション     | 24 |

## 第2章

## こんなに簡単、財務諸表

chapter 2

|    |                   |    |
|----|-------------------|----|
| 07 | 財務3表の時代〈財務会計のしくみ〉 | 26 |
| 08 | B/Sのしくみ〈貸借対照表とは〉  | 28 |

# 貸借対照表

|    |                           |    |
|----|---------------------------|----|
| 09 | P／Lのしくみ〈損益計算書とは〉          | 30 |
| 10 | C／Sのしくみ〈キャッシュフロー計算書とは〉    | 32 |
| 11 | 利益とキャッシュはちがう〈会計を理解するポイント〉 | 34 |
|    | コラム2 企業を映す鏡!?             | 36 |

|    |                           |    |
|----|---------------------------|----|
| 12 | 会社の財産目録〈貸借対照表の資産とは〉       | 38 |
| 13 | 財産をいくらで評価するか〈取得原価会計と時価会計〉 | 40 |
| 14 | 資金をどうやって集めたか〈負債・資本の分類〉    | 42 |
| 15 | 資産・負債の細分類〈なぜ分けて表示するのか〉    | 44 |
| 16 | 資産の部1〈流動資産〉               | 46 |
| 17 | 資産の部2〈固定資産、繰延資産〉          | 48 |
| 18 | 負債の部1〈流動負債〉               | 50 |
| 19 | 負債の部2〈固定負債〉               | 52 |
| 20 | 純資産の部〈資産と負債の差額概念〉         | 54 |
| 21 | 純資産の変動要因〈株主資本等変動計算書のしくみ〉  | 56 |
|    | コラム3 粉飾決算!?               | 58 |

# 損益計算書

|    |                       |    |
|----|-----------------------|----|
| 22 | いくら儲かったのか〈利益剰余金の増減理由〉 | 60 |
| 23 | 売上高と売上原価〈売上総利益の算出〉    | 62 |
| 24 | 販売費及び一般管理費〈営業利益の算出〉   | 64 |
| 25 | 営業外収益と営業外費用〈経常利益の算出〉  | 66 |
| 26 | 特別損益と法人税等〈当期純利益の算出〉   | 68 |
| 27 | 法人税のしくみ〈会計と税務はちがう〉    | 70 |
|    | コラム4 年収と財産            | 72 |

# キャッシュフロー計算書

|    |                                     |    |
|----|-------------------------------------|----|
| 28 | いくら稼いだのか〈キャッシュの増減理由〉                | 74 |
| 29 | 営業キャッシュフロー〈キャッシュフロー計算書の主役〉          | 76 |
| 30 | 投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー〈P/Lには表れない名脇役〉 | 78 |
| 31 | フリーキャッシュフロー〈企業価値の源泉〉                | 80 |
|    | コラム5 キャッシュフローは万能!?                  | 82 |

## 第6章

## さまざまな会計の評価法（基礎編）——伝統的な会計テーマ——

|    |                         |    |
|----|-------------------------|----|
| 32 | さまざまな会計方針〈数字を読む際の注意点〉   | 84 |
| 33 | 棚卸資産の会計〈棚卸資産の評価基準と評価方法〉 | 86 |
| 34 | 有形固定資産の会計〈減価償却のしくみ〉     | 88 |
| 35 | 繰延資産の会計〈減価償却資産とのちがいは〉   | 90 |
| 36 | リース取引の会計〈買うのとどうちがう〉     | 92 |
| 37 | 引当金の会計〈将来に備えて蓄えよう〉      | 94 |
|    | コラム6 本当のオフバランス？         | 96 |

## 第7章

## さまざまな会計の評価法（応用編）——最近導入された会計テーマ——

|    |                          |     |
|----|--------------------------|-----|
| 38 | IFRSとは〈会計基準のグローバルスタンダード〉 | 98  |
| 39 | 連結会計1〈個別会計から連結会計へ〉       | 100 |
| 40 | 連結会計2〈連結と持分法〉            | 102 |
| 41 | 時価会計1〈取得原価会計から時価会計へ〉     | 104 |
| 42 | 時価会計2〈金融商品の時価会計〉         | 106 |

# IFRS導入の最新動向

— 会計処理の統一化への流れ —

|    |                               |     |
|----|-------------------------------|-----|
| 43 | 時価会計3 〈固定資産の減損会計〉             | 108 |
| 44 | 税効果会計1 〈会計と税務のタイミングのスレとは〉     | 110 |
| 45 | 税効果会計2 〈タイミングのスレを調整しよう〉       | 112 |
| 46 | 税効果会計3 〈本当に税金は安くなるのか〉         | 114 |
| 47 | 退職給付会計 〈負債の時価評価の導入〉           | 116 |
|    | コラム7 投資促進ツール!?                | 118 |
| 48 | IFRS導入の方向性1 〈利用者重視の徹底〉        | 120 |
| 49 | IFRS導入の方向性2 〈日本基準との違い〉        | 122 |
| 50 | IFRSと時価会計1 〈包括利益の導入〉          | 124 |
| 51 | IFRSと時価会計2 〈さまざまな資産・負債評価〉     | 126 |
| 52 | IFRSの決算書フォーム 〈横断的な5つのセクションとは〉 | 128 |
| 53 | IFRS導入と中小企業 〈中小企業の実務動向〉       | 130 |
|    | コラム8 IFRS導入でトクをするのは?          | 132 |

第9章

財務分析のツール — 経営のモノサシ —

|    |                               |     |
|----|-------------------------------|-----|
| 54 | 財務分析の3原則〈財務諸表を読む前に〉           | 134 |
| 55 | バランスをいかに考えるか〈財務指標のしくみ〉        | 136 |
| 56 | ROA、ROE〈企業の総合収益力指標〉           | 138 |
| 57 | ROA、ROEの分解〈分けると真実が見える〉        | 140 |
| 58 | 財務安全性分析〈短期と長期、二つの安全性〉         | 142 |
| 59 | 効率性分析と運転資金〈営業循環とキャッシュフロー〉     | 144 |
| 60 | 成長性分析〈事業計画策定の基礎〉              | 146 |
| 61 | キャッシュフロー分析1〈成長ステージとキャッシュフロー〉  | 148 |
| 62 | キャッシュフロー分析2〈利益がキャッシュが〉        | 150 |
| 63 | キャッシュフロー分析3〈さまざまなキャッシュフローの概念〉 | 152 |
| 64 | 株価関連分析〈PER、PBR、PSR〉           | 154 |
|    | コラム9 ROEの光と影!?                | 156 |

# 会計情報と企業価値

— 企業の評価手法を知る —

|    |                              |     |
|----|------------------------------|-----|
| 65 | 会計情報と企業価値〈企業評価の実務〉           | 158 |
| 66 | ネットアセット・アプローチによる評価〈純資産法とは〉   | 160 |
| 67 | インカム・アプローチによる評価〈収益法、DCF法とは〉  | 162 |
| 68 | マーケット・アプローチによる評価〈比準法、倍率法とは〉  | 164 |
| 69 | M&A実務における評価〈EV/EBITDA倍率の使い方〉 | 166 |
|    | コラム10 DCF方式の功罪               | 168 |

# さまざまな管理会計ツール

|    |                       |     |
|----|-----------------------|-----|
| 70 | 経営プロセスと管理会計〈管理会計の役割〉  | 170 |
| 71 | さまざまな費用〈管理会計の出発点〉     | 172 |
| 72 | 差額原価分析〈意思決定の基本ツール〉    | 174 |
| 73 | CVP分析1〈損益分岐点の算出〉      | 176 |
| 74 | CVP分析2〈CVP分析の活用例〉     | 178 |
| 75 | CVP分析3〈変動費型産業と固定費型産業〉 | 180 |

|    |                     |                       |     |
|----|---------------------|-----------------------|-----|
| 76 | 回収期間法とROI           | 〈設備投資の伝統的判断手法〉        | 182 |
| 77 | NPV法                | 〈設備投資の理論的判断手法①〉       | 184 |
| 78 | NPVの具体例             | 〈具体例で検討してみよう〉         | 186 |
| 79 | IRR法                | 〈設備投資の理論的判断手法②〉       | 188 |
| 80 | 資本コストの考え方           | 〈WACCとは〉              | 190 |
| 81 | 原価計算のしくみ            | 〈なぜ必要なのか〉             | 192 |
| 82 | 伝統的原価計算のしくみと限界      | 〈製品の原価は正しいのか〉         | 194 |
| 83 | ABC(活動基準原価計算)       | 〈活動をベースとした原価計算手法〉     | 196 |
| 84 | 責任センター              | 〈業績評価の基本〉             | 198 |
| 85 | コストセンターの業績評価方法      | 〈責任センターの考え方①〉         | 200 |
| 86 | プロフィットセンターの業績評価方法   | 〈責任センターの考え方②〉         | 202 |
| 87 | インベストメントセンターの業績評価方法 | 〈責任センターの考え方③〉         | 204 |
| 88 | グループ経営とPPM          | 〈責任センターの限界とポートフォリオ戦略〉 | 206 |
|    | コラム11               | 社長はつらいよ!?             | 208 |

おわりに



# 会計って 何だろう

- 01. 本書のしくみ
- 02. ビジネスの共通言語
- 03. だれのための会計か
- 04. ルールに基づく財務会計
- 05. さまざまな財務会計制度
- 06. 意思決定のための管理会計

# 01 本書のしくみ

## 本書を読む前に

本書では、企業経営を理解するための「会計」について、制度（ルール）としての財務会計から、それを実践で活かす道具（ツール）としての管理会計まで幅広くカバーした。

まず、第1章では「会計って何だろう」というテーマで、会計をよりマクロ的にとらえその概念を解説している。最初に「概念」を取り上げたのは、ビジネスの現場では、どんなに会計の技術的なことに詳しくても、そもそもの根本原理を理解していないと応用がきかないことが多いからだ。その意

味で、基本部分こそしっかりと読みこなしていただきたい。

そして、第2章では、「こんなに簡単、財務諸表」ということで、なかなかとつきにくい財務諸表のしくみを、身近な例を用いて解説している。ぜひここで財務会計の基本を身につけてほしい。

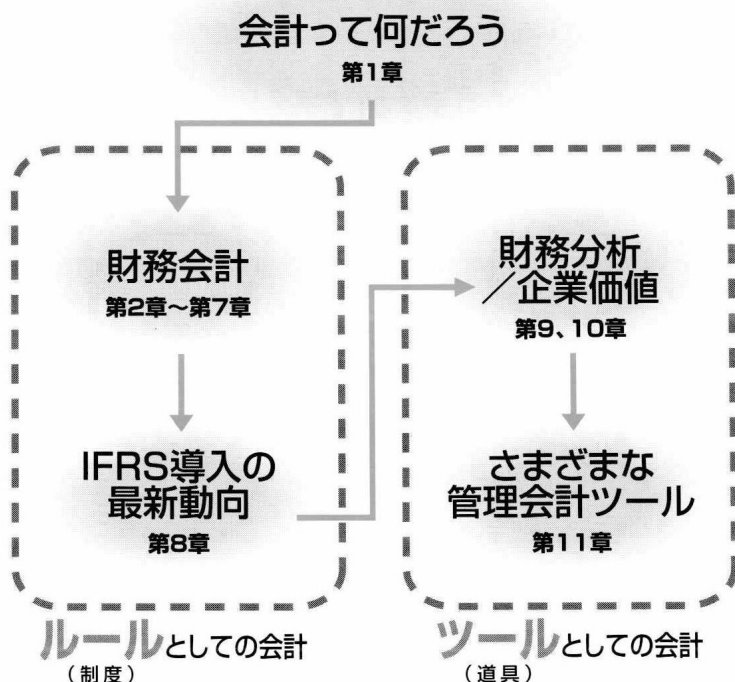
次の第3章から財務会計の各論に入る。3章から順に「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュフロー計算書」といった財務諸表そのものについて解説し、第6章・7章では「さまざまな会計の評価法（基礎編及び応用編）」という順

に、財務会計のしくみを網羅的かつ体系的に解説した。ここまでくれば折り返し地点だ。

そして、第8章の「IFRS導入の最新動向」では、昨今話題になっているIFRS（国際会計基準）の導入について、その概略を解説した。IFRS導入は、2010年時点ではまだ流動的な部分はあるが、今後の日本の会計ルールにも大きな影響を与えることは間違いない。ここでは、これからの会計、そして経営を考える手がかかりをつかんでいただきたい。

さらに、第9章ではより実践的

## 図01 本書のしくみ



な財務分析の手法を解説し、第10章では会計とは切っても切り離せない企業価値の基礎的な考え方を解説した。昨今何かと話題の多いM & A（企業の合併と買収）を語る上では必須となる知識だろう。

そして、ラストの第11章で経営判断のためのさまざまな管理会計ツールを紹介している。ここまでくればもう一人前。あとは実践あるのみだ。

## そもそも会計とは

会計って何だろう？　こんな素朴な疑問に一言で答えるとするれば、「会計とはビジネスを理解するための共通言語である」といえる。

そもそもビジネスの本質は、限られた経営資源を有効に活用して顧客に付加価値を提供し、それによりリターンを得てその成果を適正に配分することにあるが、この一連のプロセスを整理・伝達するしくみが、実は「会計」なのである。現代の企業社会では、どんなに小さな会社においても、実は、たかさんの利害関係者が存在する。たとえば、株主・債権者・顧客・

仕入先・従業員などと多種多様にわたる。

これら多くの利害関係者に対し、いかに企業の内容をきちんと整理したうえで伝達し、また取引の結果として満足してもらうか。これが、企業経営を成功させるための最大のポイントとなる。なぜなら、利害関係者の理解、そして満足がなければ、結果として、事業の運営自体が困難になってしまうからだ。ビジネスの内容を利害関係者に理解させ、企業をよりよく運営するための道具が、「会計」なのである。

また逆にいうと、会計をきちんと理解していれば、どんなに難しく複雑な取引・巨大な会社があったとしても、それを簡単に理解することができる。複雑かつ巨大なビジネスを、「会計」という道具でもって単純化できるからだ。

また、近年のグローバル経済の進展とあいまって、利害関係者の範囲が世界中に拡大している。そんな中、ビジネスの言語（「尺度」）たる会計が統一化されていくのは、当然の流れであろう。昨今騒がれているIFRS（国際会計基準）の導入は、この流れによるものである。